【神戸智行氏 略歴】

昭和 50 年　　岐阜県に生れる
平成 12 年　　第 9 回佐藤国際文化育英財団奨学生展（佐藤美術館／千駄ヶ谷）
平成 13 年　　多摩美術大学大学院日本画専攻修了
平成 20 年　　文化庁在外研修員として、1 年間ボストンで研修
平成 21 年　　クロスアート 2（岐阜県美術館）
平成 22 年　　「日本画」の現在（青梅市立美術館）
「いのちのかがやき　－花鳥画の現在」（茨城県天心記念五浦美術館）
DOMANI・明日展 未来を担う美術家たち＜文化庁芸術家在外研修の成果＞
（国立新美術館／六本木）
平成 23 年　　「トップランナー日本画の若き力」（高崎市タワー美術館）
神戸智行展「イノセント・ワールド」（佐藤美術館／新宿）
太宰府天満宮アートプログラム 神戸智行「イノセント・ワールド」

【神戸智行氏 メッセージ】

『未来ノ礎　〜春めく／夏めく／秋めく／冬めく〜』

この作品は、新しい場所へと旅立ち、これからの時代を創っていく卒業生の皆さん、そして、先輩のバトンを引き継ぐ後輩の皆さんへのメッセージを形にしたものです。

私たちの住むこの日本の身近な自然は、季節によって様々な表情を見せてくれます。そこには、たくさんの生命が存在しています。

足を止めて目を凝らして見ると、小さな生き物達が現れ、葉一枚をとっても色付きや虫食いなど、一つとして同じものはありません。

それぞれが様々な人生を経てそこに存在し、それらがより集まってこの世界を構成し、またそれらが変化していくことで、これからの世界を創っています。

花びらや紅色に色付いた葉は、風に運ばれ偶然重なり合ってその場所を彩り、次の季節を待ちます。水に浮かぶ緑の葉は、たくさんの生命をつくる源となっています。

そして、地面に落ちて集まった葉は、多くの生命の居場所となり、また土に還って次の生命の糧となります。

小さな小さな生命が土台となって大きな世界を構成するように、この学校で学ばれた皆さんも大きな世界の「未来ノ礎」になってほしいと願っています。

平成 24 年 3 月 1 日
神戸　智行